

(7) 近畿



近畿地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)

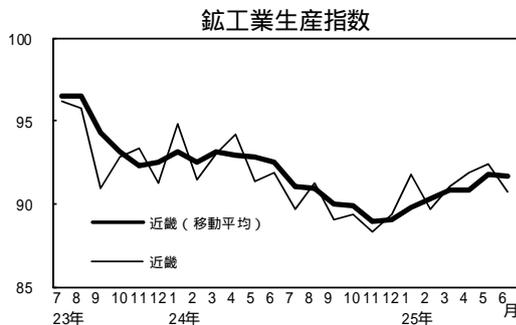
前回調査からの主要変更点

	前回(平成25年5月)	今回(平成25年8月)	
景況判断	緩やかに持ち直し	持ち直し	
鉱工業生産	緩やかに持ち直し	持ち直し	
住宅建設	おおむね横ばい	大幅に増加	
雇用情勢	改善の動き	改善	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直している。

4～6月期には、一般機械は、ボイラ・原動機等が低下に寄与したこと等から減少した。化学は、一部の工場で定期点検のため、製造ラインを停止したこと等から減少した。食料品・たばこは、肉類等で減少した。電気機械は、太陽電池モジュールが好調であったことに加え、気温が高かったことからセパレート型エアコンが好調であったこと等から増加した。鉄鋼は、横ばいであった。



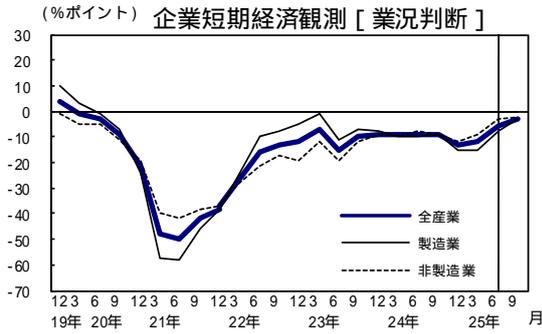
(備考) 1. 17年=100、季節調整値、最新月は速報値。
2. 太線は後方3か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

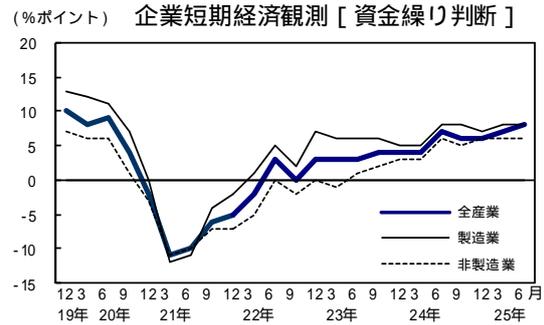
	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
一般機械	17.0	4.5	6.4	3.4	10.6	1.8
化学	14.5	3.3	1.9	1.2	1.7	2.9
食料品・たばこ	9.1	2.1	1.6	1.3	0.1	2.6
電気機械	8.5	5.1	1.4	7.3	11.7	5.3
鉄鋼	7.5	10.4	0.0	2.3	0.1	10.6
鉱工業	100.0	2.0	1.0	1.0	0.5	1.8

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 4～6月期、6月は速報値。

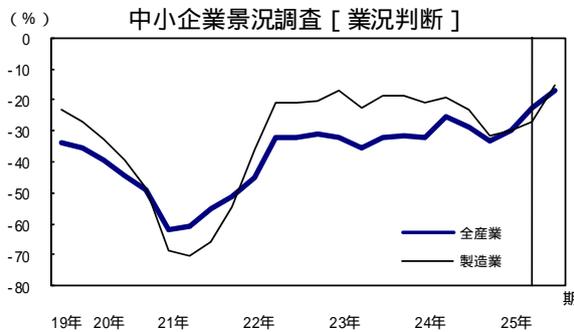
(2) 業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。
 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年9月は予測。
 21年12月は新・旧基準を併記。



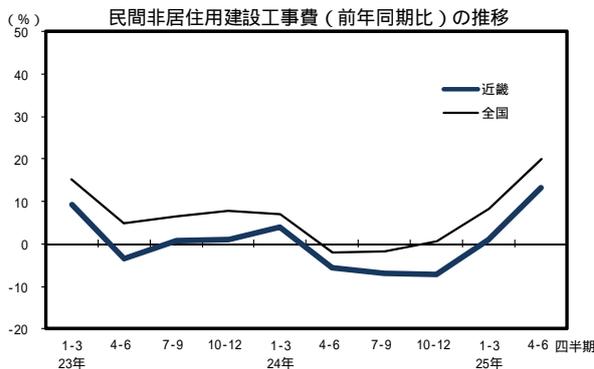
(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
 21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]
 「建築関係の動きは今一つであるが、自動車関係などを中心に出荷量は増えている(金属製品製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	24年度実績	25年度見通
全産業	1.0(4.5)	5.1(1.9)
製造業	2.7(4.6)	4.9(0.7)
非製造業	3.6(4.4)	5.3(2.8)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。

(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比0.2%増、5月は同0.1%増、6月は同0.0%減となった。

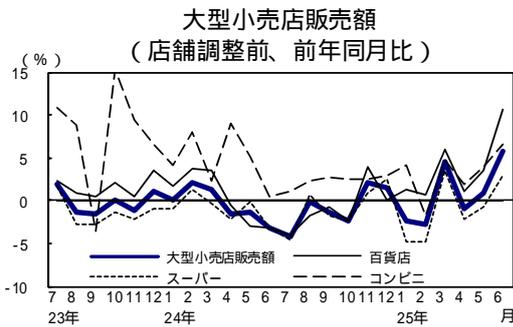
大型小売店販売額

百貨店は、4月は気温が上がらず春・初夏物のファッションが不振だったものの、ラグジュアリーブランド、時計などの高額品の需要が引き続き好調だったこと等から、前年を上回った。5月は、引き続き高額品が好調に推移していること等から前年を上回った。6月は一部店舗の増床・リニューアル効果と、気温上昇やクリアランスセールの前倒しなどにより衣料品や夏物商品が好調だったことに加え、日曜日が前年より1日多かったこと等から、前年を上回った。スーパーは、営業日数の減少や、葉物野菜、土物野菜ともに相場安であったこと等から、前年に対し横ばいであった。

景気ウォッチャー調査 (7月) [家計動向関連 (現状)]

近畿地域の家計動向関連DIは、52.0となり前月より3.0ポイント低下した。

「大阪は、4、6月の大型商業施設の開業による地域間、地域内競争の激化で、既存店舗の売上に悪い影響が出ている(商店街)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

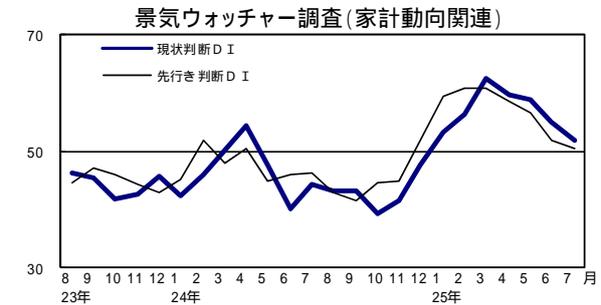
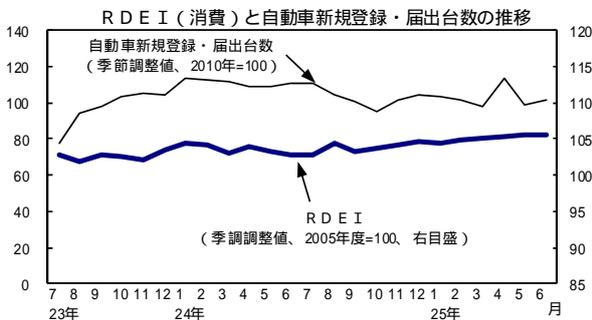


	25年4-6月	25年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	0.6	0.2	0.1	0.0
大型小売店(*2)	1.9	0.9	0.8	5.8
百貨店(*2)	5.0	1.1	3.5	10.7
スーパー(*2)	0.0	2.1	0.8	3.0
コンビニ(*2)	4.2	2.0	4.0	6.5
乗用車(*3)	4.4	5.2	5.8	10.0
(季節調整値)(*3)	3.6	15.4	12.6	2.7

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

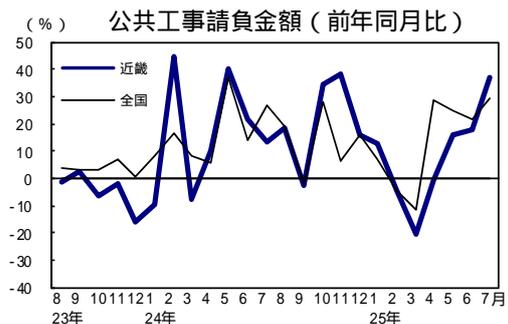
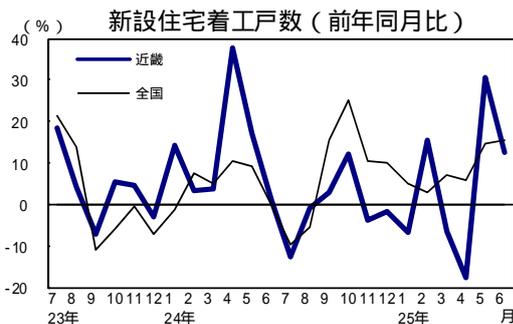
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

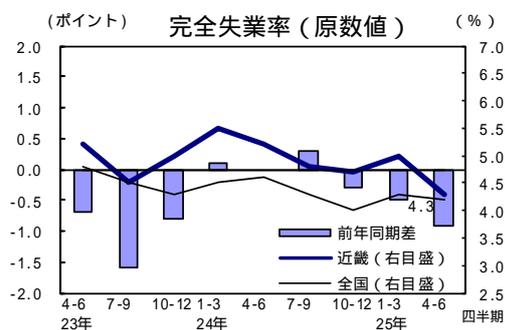
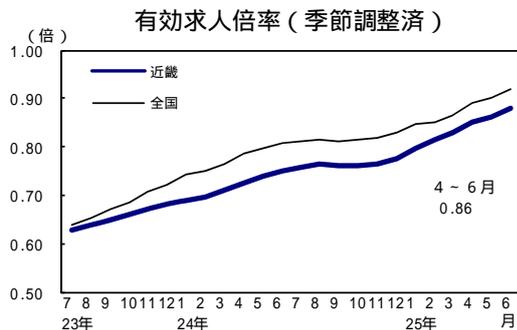
持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、全体でも大幅に増加している。

(3) 公共投資は25年度累計で見ると前年度を上回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は、改善している。
 有効求人倍率及び完全失業率
 有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。

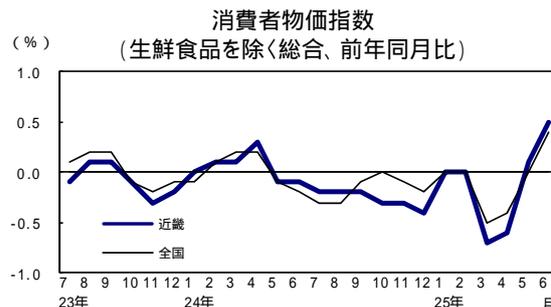


景気ウォッチャー調査(7月)[雇用関連(現状)]
 「製造業はまだまだ落ち込んでおり、非常に厳しい状況であるが、物流業に関しては例年よりもオーダー数が伸びるなど、動きが少しずつ出てきている(人材派遣会社)」などの回答がみられた。

- (2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。
 (3) 消費者物価指数は、おおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年7-9月	10-12月	25年1-3月	4-6月	25年7月
倒産件数	728	760	679	715	219
(前年比)	13.2	11.4	13.8	10.5	24.0
負債総額	4,668	1,148	706	1,045	283
(前年比)	316.5	13.7	30.7	33.2	93.2



景気ウォッチャー調査(7月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・猛暑効果も相まって、駅ナカの各店では飲料を中心に菓子類、チルド食品がよく売れている(その他サービス業[店舗開発])

<先行き>

- ・販売動向に関しては、来年の消費税率引上げ前の駆け込み需要や、購買意欲の上昇で、年度後半は堅調に推移する見通しである(その他非製造業[衣服卸])

